

「バイオマス産業都市構想検討部会」における意見まとめについて

1 部会委員

部会長	塩路 昌宏	京都大学大学院エネルギー科学研究科長
	久米 辰雄	大阪ガス株式会社エネルギー技術部技術顧問
	阿南 雅哉	株式会社京都銀行営業本部取締役営業支援部長
	酒井 伸一	京都大学環境科学センター長
	高岡 昌輝	京都大学大学院工学研究科・地球環境学堂教授
	田中 和博	京都府立大学副学長・地域連携センター長
	松田 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
	村瀬 克子	京都市地域女性連合会常任委員

2 部会開催状況と主な議題

第1回 平成26年10月1日

- ・ バイオマス産業都市について
- ・ バイオマス利活用の現状等について

第2回 平成26年10月28日

- ・ 木質バイオマスエネルギー利用について
- ・ 廃棄物系バイオマスエネルギー利用について

第3回 平成26年12月17日

- ・ 先進事例調査等について
- ・ バイオマス産業都市のイメージについて

第4回 平成27年 3月13日

- ・ 前回の部会における指摘事項及び事例調査等について
- ・ バイオマス産業都市のイメージについて

3 主な意見

- ・ 観光業界や大学，社寺との連携，市民力や地域力の活用など，京都ならではのキーワードを盛り込むべきである。
- ・ 京都の強みである地元企業と連携し，その先端技術を幅広く活用した取組を展開する必要がある。
- ・ 行政主導型の計画ではなく，バイオマスの認知度を高め，市民や事業者の自主的な取組が広がるようなものにすべきである。
- ・ 北部山間地域の活性化に当たっては，市街地の市民や事業者と連携した取組が不可欠である。
- ・ 地域のバイオマスを十分に活用するためには，現場における担い手や人材の育成も大切である。

⇒これらの意見を踏まえて取りまとめられたものが，別紙の「京都市バイオマス産業都市構想イメージ案」です。

＜イメージ案の概要＞

①食の循環プロジェクト

北部山間地域と市内に設置した小型バイオガス化施設で生ごみを発酵させ、発生する熱や液肥を利用し、地場野菜を生産して販売する循環システムを構築する。

②森林バイオマス活用プロジェクト

森林保全や治山のために木質ペレットや薪炭を最大限活用するとともに、持続可能な木質バイオマス発電や熱利用に取り組む。

③「都市油田」発掘プロジェクト

主に事業系の紙ごみからエタノールを製造し、化学原料や輸送用燃料として活用する。また、その残渣からバイオガスを製造し、発電に活用する。

④バイオガスプロジェクト

主に家庭系の生ごみからバイオガスを製造し、発電に活用する。

⑤バイオディーゼルプロジェクト

動植物性の廃食用油からバイオ軽油を製造し、ごみ収集車や市バスで活用するとともに、従来のバイオディーゼル燃料については、民間主導での B5 や高濃度利用を促進・支援する。

⑥先端技術連携プロジェクト

民間企業が保有・開発する先端技術を活用し、各プロジェクトと組み合わせることにより、エネルギー効率等を一層向上させる。

4 今後の取組

「京都市バイオマス産業都市構想イメージ案」をベースに、更に詳細な検討を加えるとともに、構想に記載しなければならない温室効果ガス削減量や地域波及効果等の算定に必要なデータを検討・整理したうえで、市域全体における経済効果等も盛り込んだ、京都市ならではの「京都市バイオマス産業都市構想」を策定し、国の公募状況等を踏まえて応募してまいります。